

プレスリリース

本資料は4月14日に米国で
発表されたプレスリリースの
翻訳版です



2022年4月14日

2022年第1四半期決算および主要指標

CEO コメント

収益
192億ドル

当期利益
43億ドル

一株当たり
利益
2.02ドル

株主資本利益率
9.0%
有形普通株式株
主資本利益
10.5%¹

普通株式等
Tier 1
資本比率
11.4%²

40億ドルを普通株主に資本還元

配当性向は 100%³

一株当たり純資産額は 92.03ドル

一株当たり有形純資産額は 79.03ドル⁴

シティグループ・インクは、本日、2022年第1四半期の収益は192億ドル、当期利益は43億ドル（希薄化後株式一株当たり2.02ドル）と発表しました。これに対し、2021年第1四半期の収益は197億ドル、当期利益は79億ドル（希薄化後株式一株当たり3.62ドル）でした。

収益は、前年同期から2%減少しました。インスティテューショナル・クライアント・グループ (ICG) のサービス業務とパーソナル・バンキングおよびウェルス・マネジメント (PBWM) 事業の非金利収益の減少が、正味金利収益の増収の効果を上回ったことによります。

当期利益は43億ドルと、前年同期から46%減少しました。与信費用の増加、その他費用の増加、収益の減少が背景にあります。当期の決算には、レガシー事業基盤に計上されたアジア個人金融部門の売却関連費用の約677百万ドル（税引き後588百万ドル）⁵が含まれています。

1株当たり利益は、前年同期から44%減少して2.02ドルとなりました。発行済み株式の6%減少により一部相殺されましたが、当期利益の減少が背景にあります。

本プレスリリース内における比率の比較は、別途明記されていない限り、2022年第1四半期と2021年第1四半期を対比して計算されたものです。

シティの最高経営責任者であるジェーン・フレイザーのコメントは次のとおりです。「地政学的環境とマクロ環境がこれまで以上に不安定ですが、シティは、直近のインバスター・デーで公表した戦略を執行しています。サービス業務に重点を置いていることから、トレジャリー & トレード・ソリューションズの業績に満足しています。手数料の伸び、貿易関連の貸付、クロスボーダー取引は金利上昇に支えられ、前年同期比の増収率は18%に達しました。また、セキュリティーズ・サービスも好業績となり、収益は6%増加しました。マーケットでは、シティのトレーダーはこうした環境に非常にうまく対処し、外国為替とコモディティが力強い伸びを示しました。ただし、資本市場取引の縮小にみられるように、投資銀行業務は足元のマクロ環境により打撃を受けました。この分野は、引き続きシティの主な投資対象です」

「与信費用と返済率からは、引き続き米国の消費者の健全性とレジリエンスを見て取れます。カードローンの伸び、活発なカード利用の拡大など主要ドライバーにしっかりと取り組みましたので、事業の方向性は良いでしょう。地政学的要因によりウェルス・マネジメントの業績は低迷したものの、バンカーの採用や、お客さまへのサービス提供内容の強化を通じて、プライベート・バンクとシティゴールドの双方で継続的に新規顧客を獲得できています」

「シティは、第1四半期中に株主の皆様へ40億ドルを還元し、現在は、発行済み株式が1年前に比べて約6%減少しました。インフラ、リスクと統制、事業に必要な投資を実行しているところであり、シティは引き続き、中期的に株主の皆様への還元向上に尽力していきます」

第1四半期決算

シティグループ (単位:百万ドル、ただし別途記載があるものを除く)	2022 年 第 1 四半期	2021 年 第 4 四半期	2021 年 第 1 四半期	前期比	前年同期比
インスティテューショナル・クライアント・グループ	\$11,160	\$8,908	\$11,388	25%	(2)%
パーソナル・バンキングおよびウェルス・マネジメント	5,905	5,785	5,992	2%	(1)%
レガシー事業基盤	1,931	2,193	2,243	(12)%	(14)%
本社事項、本社業務／その他	190	131	44	45%	NM
収益合計、金利費用控除後	19,186	17,017	19,667	13%	(2)%
営業費用合計	13,165	13,532	11,413	(3)%	15%
正味貸倒損失	872	866	1,748	1%	(50)%
正味貸倒引当金繰入額(戻入額) ^(a)	(138)	(1,369)	(3,853)	90%	96%
その他引当金 ^(b)	21	38	50	(45)%	(58)%
与信費用合計	755	(465)	(2,055)	NM	NM
法人税等控除前の継続事業からの利益	5,266	3,950	10,309	33%	(49)%
法人税等	941	771	2,332	22%	(60)%
継続事業からの利益	4,325	3,179	7,977	36%	(46)%
非継続事業からの当期利益(損失)、税引き後	(2)	-	(2)	NM	-
非支配持分に帰属する当期利益	17	6	33	NM	(48)%
シティグループ当期利益	\$4,306	\$3,173	\$7,942	36%	(46)%
法人税等控除前の継続事業からの利益(損失)、税引き後					
インスティテューショナル・クライアント・グループ	2,658	2,330	5,430	14%	(51)%
パーソナル・バンキングおよびウェルス・マネジメント	1,860	1,613	2,420	15%	(23)%
レガシー事業基盤	(385)	(620)	320	38%	NM
本社事項、本社業務／その他	192	(144)	(193)	NM	NM
期末貸出金(単位:十億ドル)	660	668	666	(1)%	(1)%
期末資産(単位:十億ドル)	2,394	2,291	2,314	4%	3%
期末預金残高(単位:十億ドル)	1,334	1,317	1,301	1%	3%
一株当たり純資産	\$92.03	\$92.21	\$88.18	-	4%
一株当たり有形純資産額⁽⁴⁾	\$79.03	\$79.16	\$75.50	-	5%
普通株式等 Tier 1(CET1)自己資本比率⁽²⁾	11.4%	12.2%	11.6%		
補完的レバレッジ比率(SLR)⁽²⁾	5.6%	5.7%	6.9%		
平均普通株主持分利益率	9.0%	6.4%	17.2%		
平均有形普通株式株主資本利益率(RoTCE)⁽¹⁾	10.5%	7.4%	20.1%		

注記: 詳細については、本プレスリリース末尾の付表と脚注をご参照ください。

(a) 貸倒引当金繰入額(戻入額)と未実行貸出約定に関する貸倒引当金を含みます。

(b) 保険契約者の給付および債権に対する引当金、満期保有目的の債券および他の資産を含みます。

シティグループ

シティグループの収益は、2022 年第 1 四半期は 192 億ドルと 2%減少しました。サービス部門と PBWM の正味金利収益は増加しましたが、銀行業務とグローバル・ウェルス・マネジメントの非金利収益の減少、ならびにレガシー事業基盤の減収の影響が響きました。

シティグループの営業費用は、2022 年第 1 四半期は 132 億ドルと 15%増加しました。アジア個人金融部門の売却関連費用の影響を除くと、営業費用は 10%増加しました。生産性向上による節減額で一部相殺されましたが、シティの変革に対する継続的な投資、事業に対する投資、取引高の伸びに伴う費用が発生したことによります。

シティグループの与信費用は、前年同期の(21)億ドルに対して 2022 年第 1 四半期は 755 百万ドルでした。これは、貸倒引当金(ACL)の正味戻入額の減少が、正味貸倒損失の減少の影響を上回ったことによります。正味戻入額には、ロシア向けエクスポージャーとマクロ経済環境に関してウクライナでの戦闘による広範な影響に関連する 19 億ドルの貸倒引当金の繰入額が含まれています。

2022 年第 1 四半期のシティグループの当期利益は 43 億ドルと、前年同期から 46%減少しました。これは、与信費用の増加、その他費用の増加、収益の減少が要因でした。当期のシティグループの実効税率は 18%となり、2021 年第 1 四半期の 23%から低下しました。当期の実効税率の低下は、特定の税務監査項目の解決を反映しています。

シティグループの貸倒引当金の合計は、当四半期末において 154 億ドルで、貸出金総額の 2.35%でした。これに対して前年同期末は 216 億ドル(貸出金総額の 3.29%)でした。不稼働資産の総額は、前年同期から 34%減少して 34 億ドルとなりました。個人向け未収利息非計上貸出金は、36%減少して 15 億ドルとなりました。一方、法人向け未収利息非計上貸出金は、前年同期から 31%減少して 19 億ドルとなりました。

シティグループの期末貸出金は、当四半期末において 6,600 億ドルに達し、前年同期から 1%減少しました。

シティグループの期末預金残高は、当期末残高で 1.3 兆ドルとなり、前年同期から 3%増加しました。PBWM の 11%増と ICG の 3%増が原動力となりました。

シティグループの一株当たり純資産額は、当四半期末において 92.03 ドル、一株当たり有形純資産額は 79.03 ドルと、当期利益累計額と発行済み株式数の減少により、それぞれ 4%と 5%増加しました。四半期末時点でシティグループの普通株式等 Tier 1 (CET1) 資本比率は 11.4%と、前期の 12.2%から上昇しました。シティグループの 2022 年第 1 四半期の補完的レバレッジ比率は 5.6%となり、前期は 5.7%でした。当期中に、シティグループは約 50 百万株の普通株式の買戻しを行いました。普通株式の買戻しと配当の形式で合計約 40 億ドルを普通株主に還元しました。

インスティテューショナル・クライアント・グループ (単位:百万ドル、ただし別途記載があるものを除く)	2022 年 第 1 四半期	2021 年 第 4 四半期	2021 年 第 1 四半期	前期比	前年同期比
セキュリティー・サービス	\$858	\$854	\$812	-	6%
トレジャリー & トレード・ソリューション	2,590	2,404	2,188	8%	18%
サービス業務の収益合計	3,448	3,258	3,000	6%	15%
債券市場業務	4,299	2,425	4,346	77%	(1)%
株式市場業務	1,527	918	1,587	66%	(4)%
市場業務の収益合計	5,826	3,343	5,933	74%	(2)%
投資銀行業務	1,028	1,553	1,798	(34)%	(43)%
法人貸付業務 ^(a)	689	733	735	(6)%	(6)%
銀行業務の収益合計^(a)	1,717	2,286	2,533	(25)%	(32)%
商品の収益、金利費用控除後^(a)	10,991	8,887	11,466	24%	(4)%
ローン・ヘッジ利益(損失)	169	21	(78)	NM	NM
収益合計、金利費用控除後	11,160	8,908	11,388	25%	(2)%
営業費用合計	6,723	6,225	5,932	8%	13%
正味貸倒損失	30	82	175	(63)%	(83)%
正味貸倒引当金繰入額(戻入額) ^(b)	948	(373)	(1,709)	NM	NM
その他引当金 ^(c)	(7)	10	(5)	NM	(40)%
与信費用合計	971	(281)	(1,539)	NM	NM
当期利益	\$2,640	\$2,320	\$5,393	14%	(51)%

サービスの主要ドライバー

クロスボーダー取引額(単位:十億ドル)	76	78	65	(3)%	17%
商業クレジットカード利用額(単位:十億ドル)	11	11	7	-	54%
米ドル決済額(単位:百万ドル)	36	38	35	(4)%	2%
カストディ資産および/または管理資産(AUC/AUA)(単位:1兆ドル)	23	24	21	(3)%	8%

注記: 詳細については、本プレスリリース末尾の附表と脚注をご参照ください。

(a) クレジット・デリバティブならびに公正価値での貸出金の時価評価に係る利益(損失)を除きます。詳細については、脚注 6 をご参照ください。

(b) 貸倒引当金繰入額(戻入額)と未実行貸出約定に関する貸倒引当金を含みます。

(c) 満期保有目的の債券および他の資産の引当金を含みます。

インスティテューショナル・クライアント・グループ

ICG の収益は、2%減の 112 億ドルでした。サービス業務の収益の増加により一部相殺されましたが、投資銀行業務の収益の減少が主な要因でした。

サービス業務の収益は 34 億ドルと、前年同期から 15%増加しました。トレジャリー & トレード・ソリューションズの収益は、18%増の 26 億ドルとなりました。預金残高の増加と預貸利ざやの拡大ならびに手数料の力強い伸びによって正味金利収益が伸びたことが要因です。セキュリティー・サービスの収益は 858 百万ドルと 6%増加しました。正味金利収益が通貨全般の金利上昇を受けて 17%増加し、手数料収益もカストディ資産残高の増加により 2%増えたことが背景にあります。

市場業務の収益は 58 億ドルと、2%減少しました。対して前年同期の収益は好調でした。当期において、取引の水準は、顧客の再編と厳格なリスク管理の恩恵を受けました。連邦準備制度理事会による利上げ、地政学およびマクロ経済をめぐるとの全体的な不確実性の拡がり背景にあります。債券市場業務の収益は 43 億ドルと、1%減少しました。外国為替、コモディティ、金利の顧客契約は底堅かったものの、その効果はスプレッド商品の取引減少により相殺されました。株式市場業務の収益は 15 億ドルと、前年同期から 4%減少しました。対して前年同期は、エクイティデリバティブが堅調で、プライムファイナンスの残高が伸びて極めて好調でした。

銀行業務の収益は、前年同期比で 32%減の 17 億ドルでした(ローン・ヘッジ利益(損失)を除きます)⁶。地政学情勢を巡る不確実性の高まりとマクロ経済環境全体が影響し、債券および株式資本市場の取引が縮小しました。投資銀行業務の収益は 43%減少しました。アドバイザリー業務の伸びにより一部相殺されましたが、資本市場の取引が減少したことによります。法人貸付業務の収益は、6%減の 689 百万ドルとなりました(ローン・ヘッジ利益(損失)を除きます)。平均貸付残高の減少が主な要因でした。

ICG の営業費用は 67 億ドルと 13%増加しました。生産性による節減額により一部相殺されましたが、変革に対する投資、事業に対する投資、取引高の増加に関連する費用が発生したことによります。

ICG の与信費用は 971 百万ドルとなり、対して前年同期は(15)億ドルでした。シティのロシア向けエクスポージャーとマクロ経済環境に関してウクライナでの戦闘による広範な影響に関連する 15 億ドルの貸倒引当金繰入額が発生したことが主な要因でした。

ICG の当期利益は、51%減少して 26 億ドルとなりました。これは、主として費用と与信費用が増加したことによります。

パーソナル・バンキングおよびウェルス・マネジメント (単位:百万ドル、ただし別途記載があるものを除く)	2022 年 第 1 四半期	2021 年 第 4 四半期	2021 年 第 1 四半期	前期比	前年同期比
ブランド・カード	\$2,090	\$2,073	\$2,104	1%	(1)%
リテール・サービス	1,299	1,290	1,305	1%	-
リテール・バンキング	595	624	635	(5)%	(6)%
米国パーソナル・バンキングの収益合計	3,984	3,987	4,044	-	(1)%
プライベート・バンク	780	688	786	13%	(1)%
ウェルス・アット・ワーク	183	177	171	3%	7%
シティゴールド	958	933	991	3%	(3)%
グローバル・ウェルス・マネジメントの収益	1,921	1,798	1,948	7%	(1)%
収益合計、金利費用控除後	5,905	5,785	5,992	2%	(1)%
営業費用合計	3,889	4,017	3,422	(3)%	14%
正味貸倒損失	691	568	990	22%	(30)%
正味貸倒引当金繰入額(戻入額) ^(a)	(1,064)	(869)	(1,553)	(22)%	31%
その他引当金 ^(b)	(3)	5	6	NM	NM
与信費用合計	(376)	(296)	(557)	(27)%	32%
当期利益(損失)	\$1,860	\$1,613	\$2,420	15%	(23)%

主要指標(単位:十億ドル)

米国パーソナル・バンキング平均貸出金	161	162	159	(1)%	1%
米国パーソナル・バンキング平均預金残高	118	114	108	4%	9%
米国カード平均貸出金	128	128	123	-	5%
米国クレジットカード利用額 ^(c)	128	142	105	(10)%	23%
グローバル・ウェルス・マネジメント顧客資産	788	814	756	(3)%	4%
グローバル・ウェルス・マネジメント平均貸出金	151	150	144	1%	5%
グローバル・ウェルス・マネジメント平均預金残高	329	323	289	2%	14%

注記: 詳細については、本プレスリリース末尾の付表と脚注をご参照ください。

(a) 貸倒引当金繰入額(戻入額)と未実行貸出約定に関する貸倒引当金を含みます。

(b) 保険契約者の給付および債権に対する引当金、満期保有目的の債券および他の資産を含みます。

(c) クレジットカード利用額は、これまでカード利用額と記載されていました。

パーソナル・バンキングおよびウェルス・マネジメント

PBWM の収益は 59 億ドルと、前年同期から 1%減少しました。非金利収益の減少が、正味金利収益の増加の効果を上回ったことによります。

米国パーソナル・バンキングの収益は、1%減の 40 億ドルでした。ブランド・カードの収益は 21 億ドルと 1%減少しました。新規アカウントが増えて顧客エンゲージメントが拡大したことを受けて、返済率が上昇して獲得・リワード費用が増加したことによります。リテール・サービスの収益は 13 億ドルとほぼ横ばいでした。与信実績の向上によって正味金利収益が増加しましたが、パートナーへの支払いの増加によって帳消しされました。リテール・バンキングの収益は 595 百万ドルと、約 6%減少しました。住宅ローンの組成が減少したことが主な要因でした。

グローバル・ウェルス・マネジメントの収益は 19 億ドルと、1%減少しました。特にアジアにおける投資に関して顧客取引が減少したことが主な要因でした。

PBWM の営業費用は 14%増加し、39 億ドルとなりました。生産性による節減額により一部相殺されましたが、変革に対する投資、事業に対する投資、取引高の増加に関連する費用が発生したことによります。

PBWM の与信費用は(376)百万ドルとなり、対して前年同期は(557)百万ドルでした。正味貸倒引当金戻入額の減少が、正味貸倒損失の減少を上回ったことによります。

PBWM の当期利益は 19 億ドルと、23%減少しました。主として収益の減少、費用の増加、正味貸倒引当金戻入額の減少が背景にあります。

レガシー事業基盤 (単位:百万ドル、ただし別途記載があるものを除く)	2022 年 第 1 四半期	2021 年 第 4 四半期	2021 年 第 1 四半期	前期比	前年同期比
アジア個人金融部門	\$787	\$948	\$1,075	(17)%	(27)%
メキシコ個人金融部門/SBMM ^(a)	1,139	1,168	1,137	(2)%	-
レガシー保有資産	5	77	31	(94)%	(84)%
レガシー収益合計、金利費用控除後	1,931	2,193	2,243	(12)%	(14)%
営業費用合計	2,293	2,971	1,752	(23)%	31%
正味貸倒損失	151	216	583	(30)%	(74)%
正味貸倒引当金繰入額(戻入額) ^(b)	(22)	(127)	(591)	83%	96%
その他引当金 ^(c)	31	23	52	35%	(40)%
与信費用合計	160	112	44	43%	NM
当期利益(損失)	\$(383)	\$(616)	\$323	38%	NM

主要指標(単位:十億ドル)

アジア個人金融部門の期末貸出金	20	41	54	(53)%	(64)%
アジア個人金融部門の期末預金残高	18	43	55	(60)%	(68)%
メキシコ個人金融部門/SBMM の期末貸出金 ^(a)	21	20	20	4%	3%
メキシコ個人金融部門/SBMM の期末預金残高 ^(a)	34	33	33	4%	4%
レガシー保有の期末貸出金	4	4	6	(5)%	(39)%

注記：詳細については、本プレスリリース末尾の付表と脚注をご参照ください。

(a) SBMM は、小規模事業者およびミドルマーケット・バンキングを示します。

(b) 貸倒引当金繰入額(戻入額)と未実行貸出約定に関する貸倒引当金を含みます。

(c) 保険契約者の給付および債権に対する引当金、満期保有目的の債券および他の資産を含みます。

レガシー事業基盤

レガシー事業基盤の収益は 19 億ドルと、前年同期から 14%減少しました。韓国の段階的縮小や、アジアにおける投資活動の低迷が主な要因です。

レガシー事業基盤の費用は、31%増の 23 億ドルとなりました。アジア個人金融部門の売却関連費用の影響が現れました。

レガシー事業基盤の与信費用は 160 百万ドルとなり、対して前年同期は 44 百万ドルでした。正味貸倒引当金戻入額の減少の影響が、正味貸倒損失の減少を上回ったことによります。

レガシー事業基盤の当期利益は(383)百万ドルとなり、対して前年同期は 323 百万ドルでした。収益の減少、費用の増加、与信費用の増加が背景にあります。

本社事項、本社業務／その他 (単位:百万ドル)	2022 年 第 1 四半期	2021 年 第 4 四半期	2021 年 第 1 四半期	前期比	前年同期比
収益、金利費用控除後	\$190	\$131	\$44	45%	NM
営業費用合計	260	319	307	(18)%	(15)%
与信費用合計 ^(a)	-	-	(3)	-	100%
継続事業からの利益(損失)	192	(144)	(193)	NM	NM
当期利益(損失)	\$189	\$(144)	\$(194)	NM	NM

(a) 満期保有目的の債券および他の資産の引当金を含みます。

本社事項、本社業務／その他

本社事項、本社業務／その他の収益は 190 百万ドルと、投資ポートフォリオの正味収益の増加を受けて大幅に増加しました。

本社事項、本社業務／その他の費用は、主として報酬費用の減少を受けて、前年同期比 15%減の 260 百万ドルとなりました。

本社事項、本社業務／その他の継続事業からの利益は 192 百万ドルとなり、対して前年同期は(193)百万ドルの損失でした。収益の増加と費用の減少が要因となりました。

シティについて

シティは、世界160以上の国と地域に約2億の顧客口座を有する世界有数のグローバルな金融機関です。個人、法人、政府機関などのお客様に、個人向け銀行業務、クレジットカード、法人・投資銀行業務、証券業務、トランザクション・サービス、資産管理など、幅広い金融商品とサービスを提供しています。

www.citigroup.jp | www.citigroup.com | Twitter: @Citi | YouTube: www.youtube.com/citi | Blog: <http://blog.citigroup.com> | Facebook: www.facebook.com/citi | LinkedIn: www.linkedin.com/company/citi

本件に関するお問い合わせ先

シティグループ
コーポレート・アフェアーズ
03-6776-5112

Appendix A

Citigroup (\$ in millions)	1Q'22
Net Income	\$4,306
Less: Preferred Dividends	279
Net Income to Common Shareholders	\$4,027
Common Share Repurchases	3,000
Common Dividends	1,014
Total Capital Returned to Common Shareholders	\$4,014
Payout Ratio	100%
Average TCE	\$155,270
RoTCE	10.5%

Appendix B

Citigroup (\$ in millions, unless otherwise noted)	1Q'22	1Q'21	YoY %
Reported revenues	\$19,186	\$19,667	(2)%
Less:			
Impact of gain / (loss) on sale related to Asia divestitures ⁽¹⁾	(118)	-	-
Adjusted revenues	\$19,304	\$19,667	(2)%
Reported expenses	\$13,165	\$11,413	15%
Less:			
Impact of costs related to Asia divestitures ⁽²⁾	559	-	-
Adjusted expenses	\$12,606	\$11,413	10%

Note: Totals may not sum due to rounding. Results of operations excluding these Asia divestiture-related costs are non-GAAP financial measures.

- (1) Reflects the impact of a pre-tax loss of approximately \$(118) million (approximately \$(81) million after-tax) in 1Q22 related to the sale of the Australia consumer business, which consisted of an ACL release of \$(104) million and a net revenue impact of \$(14) million due to contractual adjustments of the divestiture recorded in Other Revenue.
- (2) Reflects the impact of costs largely related to a goodwill write-down of approximately \$535 million (approximately \$489 million after-tax) that were incurred in the Asia Consumer reporting unit of *Legacy Franchises* due to the re-segmentation and sequencing of divestitures and costs related to the Korea Voluntary Early Retirement Program (VERP) of approximately \$24 million (approximately \$18 million after-tax) in 1Q22.

Appendix C

(\$ in millions)	1Q'22 ⁽¹⁾	4Q'21	1Q'21
Citigroup Common Stockholders' Equity⁽²⁾	\$178,845	\$183,108	\$182,402
Add: Qualifying noncontrolling interests	126	143	132
Regulatory Capital Adjustments and Deductions:			
Add: CECL transition provision ⁽³⁾	2,271	3,028	4,359
Less:			
Accumulated net unrealized gains (losses) on cash flow hedges, net of tax	(1,440)	101	1,037
Cumulative unrealized net gain (loss) related to changes in fair value of financial liabilities attributable to own creditworthiness, net of tax	27	(896)	(1,172)
Intangible Assets:			
Goodwill, net of related deferred tax liabilities (DTLs) ⁽⁴⁾	20,120	20,619	20,854
Identifiable intangible assets other than mortgage servicing rights (MSRs), net of related DTLs	3,698	3,800	4,054
Defined benefit pension plan net assets; other	2,230	2,080	1,485
Deferred tax assets (DTAs) arising from net operating loss, foreign tax credit and general business credit carry-forwards	11,701	11,270	11,691
Excess over 10% / 15% limitations for other DTAs, certain common stock investments, and MSRs ⁽⁵⁾	1,157	-	-
Common Equity Tier 1 Capital (CET1)⁽⁶⁾	\$143,749	\$149,305	\$148,944
Risk-Weighted Assets (RWA)⁽³⁾⁽⁶⁾	\$1,264,581	\$1,219,175	\$1,287,619
Common Equity Tier 1 Capital Ratio (CET1 / RWA)⁽⁶⁾	11.4%	12.2%	11.6%

Note: Citi's reportable CET1 Capital ratios were derived under the Basel III Standardized Approach framework as of March 31, 2022 and December 31, 2021, and the Basel III Advanced Approaches framework as of March 31, 2021. This reflects the more binding CET1 Capital ratios under both the Standardized Approach and the Advanced Approaches under the Collins Amendment.

- (1) Preliminary.
- (2) Excludes issuance costs related to outstanding preferred stock in accordance with Federal Reserve Board regulatory reporting requirements.
- (3) Please refer to Footnote 2 at the end of this press release for additional information.
- (4) Includes goodwill "embedded" in the valuation of significant common stock investments in unconsolidated financial institutions.
- (5) Assets subject to 10%/15% limitations include MSRs, DTAs arising from temporary differences and significant common stock investments in unconsolidated financial institutions. As of March 31, 2022, the deduction related only to DTAs arising from temporary differences that exceeded the 10% limitation.
- (6) Certain prior period amounts and ratios have been revised to conform with enhancements made in the current period.

Appendix D

(\$ in millions)	1Q'22 ⁽¹⁾	4Q'21	1Q'21
Common Equity Tier 1 Capital (CET1)⁽²⁾	\$143,749	\$149,305	\$148,944
Additional Tier 1 Capital (AT1)⁽³⁾	20,264	20,263	21,540
Total Tier 1 Capital (T1C) (CET1 + AT1)⁽⁵⁾	\$164,013	\$169,568	\$170,484
Total Leverage Exposure (TLE)⁽²⁾⁽⁴⁾⁽⁵⁾	\$2,936,715	\$2,957,764	\$2,454,564
Supplementary Leverage Ratio (T1C / TLE)⁽⁵⁾	5.6%	5.7%	6.9%

- (1) Preliminary.
- (2) Please refer to Footnote 2 at the end of this press release for additional information.
- (3) Additional Tier 1 Capital primarily includes qualifying noncumulative perpetual preferred stock and qualifying trust preferred securities.
- (4) Commencing with the second quarter of 2020 and continuing through the first quarter of 2021, Citigroup's TLE temporarily excluded U.S. Treasuries and deposits at Federal Reserve banks. For additional information, please refer to the "Capital Resources" section of Citi's 2021 Annual Report on Form 10-K.
- (5) Certain prior period amounts and ratios have been revised to conform with enhancements made in the current period.

Appendix E

(\$ and shares in millions, except per share amounts)	1Q'22 ⁽¹⁾	4Q'21	1Q'21
Common Stockholders' Equity	\$178,714	\$182,977	\$182,269
Less:			
Goodwill	19,865	21,299	21,905
Intangible Assets (other than MSRs)	4,002	4,091	4,308
Goodwill and Identifiable Intangible Assets (other than MSRs) Related to Assets Held-for-Sale	1,384	510	-
Tangible Common Equity (TCE)	\$153,463	\$157,077	\$156,056
Common Shares Outstanding (CSO)	1,942	1,984	2,067
Tangible Book Value	\$79.03	\$79.16	\$75.50

- (1) Preliminary.

¹ 暫定値。シティグループの平均有形普通株式株主資本利益率(RoTCE)は、非GAAP財務指標です。RoTCEは、平均有形普通株式株主資本(TCE)に対する、普通株式に割り当てられる年次換算の利益率です。計算の構成要素については、付表Aをご参照ください。

² 2022年3月31日現在のレシオは暫定値です。シティグループの普通株式等Tier 1(CET1)自己資本比率と補完的レバレッジ比率(SLR)は、規制資本に対する現在予想信用損失(CECL)基準への移行に伴う修正に係る引当金に基づく特定の繰延を反映しています。これらの繰延を除くと、2022年3月31日現在のシティグループのCET1資本比率とSLRは、完全反映ベースでそれぞれ11.2%と5.5%になります。詳細については、シティの2021年度年次報告書(フォーム10-K)の「資本リソース」セクションをご覧ください。当期間になされた改善との一貫性を確保するため、一部の過去期間の金額が変更されています。

シティグループのCET1資本およびその比率については、付表Cをご参照ください。シティグループのSLRの構成要素については、付表Dをご参照ください。

³ シティグループの配当性向は、普通株式と普通株式の買戻しの配当合計を普通株主に係る当期利益で割った値です。計算の構成要素については、付表Aをご参照ください。

⁴ シティグループの一株当たり有形純資産額は、非GAAP財務指標です。報告する決算に対するこの指標の調整については、付表Eをご参照ください。

⁵ 2022年第1四半期の収益には、オーストラリア個人金融事業の売却に関連する税引き前損失の約(118)百万ドル(税引き後は約(81)百万ドル)の影響が含まれており、これは、貸倒引当金戻入額の(104)百万ドルとその他収益に記録された売却の契約調整による(14)百万ドルの正味収益の影響で構成されます。2022年第1四半期の営業費用には主として、再セグメント化と売却の順番に起因するレガシー事業基盤のアジア個人金融報告ユニットに発生した、のれんの償却に関連するアジアの売却関連費用の約535百万ドル(税引き後で約489百万ドル)、韓国の任意早期退職プログラム(VERP)の約24百万ドル(税引き後で約18百万ドル)が含まれています。これらのアジアの事業売却に関連する費用を除いた経営成績は、非GAAP財務指標です。報告する決算に対する調整については、付表Bをご参照ください。

⁶ クレジット・デリバティブは、未収利息計上貸出金と時価評価される貸出金両方が含まれる法人向け貸出金ポートフォリオの一部を経済的にヘッジするために使用されます。ローン・ヘッジ利益(損失)には、クレジット・デリバティブの時価評価と時価評価されるポートフォリオの貸出金の時価評価が含まれています。2022年第1四半期のローン・ヘッジ利益(損失)には、法人貸付業務に関連する169百万ドルが含まれており、前年同期は(78)百万ドルでした。これらのヘッジの固定プレミアムコストは、信用補完の費用を反映するために、法人貸出業務の収益に対して相殺されています。ローン・ヘッジ利益(損失)の影響を除いたシティグループの業績は、非GAAP財務指標です。